

重点9 生徒指導の充実

1 生徒指導

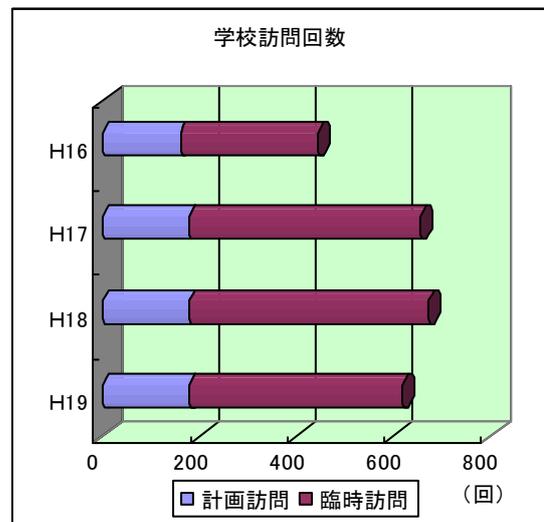
ねらい

園・学校では、全教育活動において、子どもの人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、将来において社会的に自己実現ができる資質や態度を形成しています。そのために、生徒指導担当者を中心とした指導体制のもと、全教職員の共通理解及び指導により、子どもたちとのふれあいを大切に、理解を深めるとともに心の絆づくりに努めています。また、幼稚園・小学校・中学校間の連携を大切にしています。さらに、学校・家庭・地域が、子どもの規範意識を育むとともに、情報を共有しながらネットワークを生かした協働連携を進めています。

現状

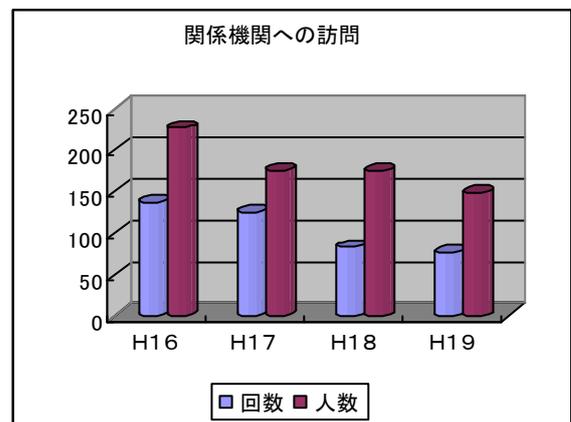
○ 指導課の学校訪問の実施

- 各園・学校が抱えている問題を的確に把握し、その解決を支援するために学校（園）訪問を実施しています。平成19年度は441回の臨時訪問をしました。
- 児童虐待や発達障害、保護者の子育て不安に関する臨時訪問が年々増加しています。
- 本年度は、保護者への対応にかかわる支援のための臨時訪問が多くなりました。



○ 関係機関との連携

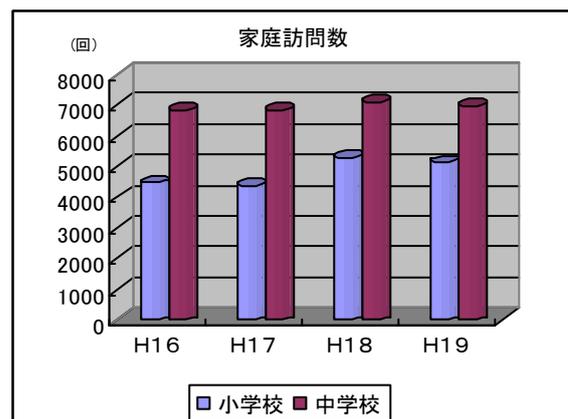
- 関係機関との連携を図るため、北勢児童相談所、四日市南・北・西警察署、北勢少年サポートセンター、家庭裁判所、保護観察所等を訪問しました。
- 生徒指導定例会、生徒指導担当者会、中学校家庭裁判所連絡協議会、四日市市子どもの虐待防止ネットワーク会議等で子どもの実態や問題行動の発生状況の情報交換をしました。
- ネットワークの機能を生かしたケース会議の開催により、児童虐待や不登校、問題行動の前兆の段階から的確な対応をしています。

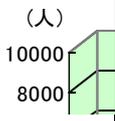


○ 家庭訪問の状況

- 様々な生徒指導に関する問題の解決には、保護者との連携が最も重要なことから、各園・学校では積極的に家庭訪問を行っています。
- 小・中学校ともに、同一の児童生徒への継続した家庭訪問数が多くなっています。

※ この調査は、勤務時間外の1時間以上にわたる家庭訪問数の結果であり、実際の家庭訪問数とは異なります。





○ 中学校単位地域すこやか協力者会議

- 学校の対応だけで解決することのできない事例に対応するため、各中学校区にある園・学校、PTA、地域関係者の代表による会議を開催しています。
- 子どもたちの健全育成を図るため、幼児期からの教育や家庭における子育てが大切であることが共通認識され、具体的な活動の実施や環境づくりについての話し合いがなされています。
- 来年度は、発展的解消を図り、「学校づくり協力者会議」を学校単位で新たに立ち上げます。

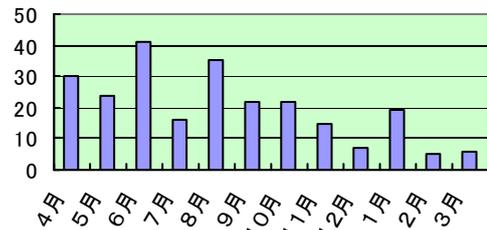
○ 補導活動

- 青少年育成指導室の補導活動は、青少年の非行や問題行動を未然に防止し、健全な育成に資することを目的に、盛り場、駅、公園、ゲームセンター、カラオケ店など、青少年の多く集まる場所を巡回しています。
- 平成19年度の補導件数は242件ですが、小中学生は65件と全体の約27%で、減少しています。
- 補導種別でみると、不健全娯楽が小中学生の補導件数の77%を占めており、夜6時以降、ゲームセンターでの小学生への注意を促す声かけが多くなっています。
- 補導件数のうち喫煙が142件と最も多く、傾向としてはカラオケ店や公園での喫煙が多くなっています。小中学生の喫煙行為は9件（昨年度6件）で、やや増加の傾向にあります。

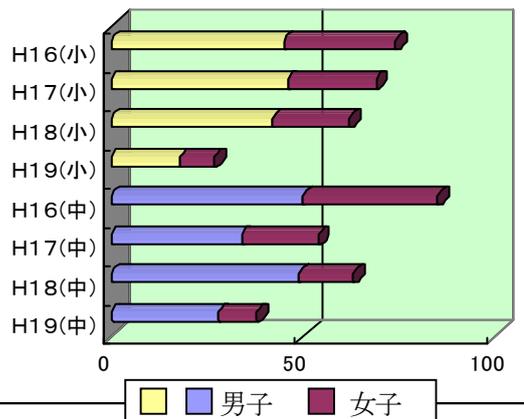
【 具体的な活動事例 】

- あいさつ運動と交通安全指導の実施
- 防犯パトロールの実施
- 不審者対応に関する情報交換
- 地域での「声かけ運動」の実施
- 地域住民との地区清掃デー活動
- EM発酵菌による河川浄化運動
- 通学路点検

平成19年度補導件数状況



補導児童・生徒件数



課 題 (今後の方向)

- いじめ、不登校、問題行動等の前兆を、「学級集団アセスメントQ-U調査」や教育相談等を活用して的確に把握し、全教職員がチームを組み、仲間づくりや個別支援等について、実態にあった対応をすることが大切です。
- いじめの予防、早期発見、早期対応については、「『いじめ』に関する指導の手引」を活用し、いじめられる子どもの立場にたった把握をすることにより、いじめられる子、いじめる子、はやしたてる子、周りにいる子、それぞれの立場の子どもを指導することが大切です。
- 児童虐待については、民生委員・児童委員、主任児童委員等とともに情報を共有しながら、北勢児童相談所や本市家庭児童相談室等と連携し、四日市市子どもの虐待防止ネットワーク会議（きゃぷねっとY）を活用した対応が必要です。
- 社会体験や奉仕活動を通じて、子どもたちが地域住民といっしょに活動する機会を増やし、家庭や地域とともに子育てをすることが重要です。
- 学校づくり協力者会議等を活用して、地域の方々とともに対応することが必要です。
- 学校・家庭・地域が、子どもの規範意識を育み、「心のサイン」に気づき、情報を共有しながら協働連携を図ることが必要です。